

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070600323		
法人名	有限会社グループホーム恵の家		
事業所名	グループホーム恵の家		
所在地	沼田市沼須町750番地		
自己評価作成日	令和元年5月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和元年6月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「個人を尊重」という理念のもとに利用者個々の趣味嗜好、出来る事、生活のリズムを考慮した支援を行なうように努めている。(例)屋内外の自由な出入り、ドライブ、洗濯物を干したり畳んだり手伝ってもらい、介護度が大きくなっている方は睡眠、食事、入浴などの時間をその方の状態を考慮して支援し

・併設している小規模多機能ホームと外食会など外出の機会を作り、随時買い物やドライブに出かけている

・地域の認知症の相談窓口として利用してもらえるように運営推進会議で地区の役員の方々に呼びかけたり、事業所からも地域で活動されている団体へお邪魔して介護技術、認知症、介護保険について話をさせて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共用空間では、料理を作る音や香りを感じながら、洗濯物を干したり・たたんだり、来訪者と交流をしたり、リレクレーションが個別では難しくなっても隣接の小規模事業所への自由な行き来ができ、利用者は生活音や訪問者に囲まれながら自由に過ごしている。介護度が高くなっても、個人の希望(外に出たい、役割を持ちたい)を受け入れ、実践することで達成感を持ってもらえるよう職員は努めている。運営推進会議で行う情報交換を通じ、地域の集いに職員が出席し、専門的知識を伝えながら地域の拠点となる活動も行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の朝礼・送り時に職員一同で理念の唱和を行なっている。また、会議等の話し合いの場にて、実践しているケアが理念に基づいているか確認している。	理念を共有できるよう、アセスメント・モニタリング・計画作成時に確認している。法人代表者が個人の尊重・個別化・利用者のペースを第一に支援する事を実践で示しており、日常的に相互で注意しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の会議・イベント(高齢サロン、婦人会、花見、納涼祭等)へ積極的に参加している。	地域で開かれる相談会では、管理者・ケアマネジャーが介護の基本的知識について伝えている。事業所で行うイベントには、地域住民へ参加を呼びかけている。慰問では音楽会も開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域サロン等に参加し、介護・認知症の出前講座を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の推進委員や利用者ご家族様に、報告・ヒアリングを行い、意見や質問を吸い上げて事業所職員に共有、全員が同じ意識を持ってサービスに取り組めるように努めている。	隣接の小規模多機能型事業所と合同で、年6回運営推進会議を開き、行政担当者、地域代表者等も参加し、情報交換を行っている。取り上げた議題を地域に還元してほしいという要望も出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年に6回の運営推進会議や地域密着型サービス連絡協議会には市の職員も参加されるなど協力をいただいている。入居者情報や事故等については報告して指導をいただいている。	行政担当者からは相談やアドバイスを受けられ、協力的関係ができています。介護保険の更新の代行や認定調査の立ちあいも行っている。家族が立ちあう利用者もいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に身体拘束ゼロを目指し取り組んでいる。定期的に身体拘束についてのミーティングを行なっている。	玄関やテラスの出入も自由で、隣接事業所への往来も日常的に行っている。3ヶ月ごとに会議でもとりあげ、自由な外出とともに所在確認を申し合わせている。スピーチロックは職員同士で互いに気付くよう会議で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講演・研修へ参加し、虐待にあたる行為や虐待につながる芽がないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	数年前は成年後見人制度を利用していた。今後も必要に応じて活用できるよう学ぶ機会を作っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	連絡を取り、時間を設けて説明の機会を作っている。専門用語は極力分かりやすい言葉での説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂き、ご意見を頂いている。また、ご家族との面会や連絡時に時間をかけて、本音を伝えて頂けるよう努めている。	家族とは、面会時に介護計画について根拠をもとに話し合いを行ない、不安や疑問について確認することを心がけている。利用者からの要望にはいつでも耳をかたむけ、応じるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的、または必要時に面接を行なっている。ヒアリングしやすい雰囲気作りに努めている。	毎月の会議・朝の申し送り時に情報交換や意見交換を行い支援方法を統一している。意見が出しやすいよう管理者から声をかけ、疑問や不満を受け止めながらスキルアップに繋がられるよう働きかけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時給、手当等は時期に関わらず見直し、賞与や処遇改善で反映できるようにしている。個々に合った勤務時間や形態を優先している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のキャリアに見合った外部研修を受けている。研修後には伝達講習を実施し、情報共有や意識向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会等への参加を通して、ネットワークづくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ヒアリングや情報収集を行なう中で、会話を通じて不安要素を払拭できるような関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族としての困りごとや想いを汲み取れるように、時間をかけて話す機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリング・アセスメントの中で、必要に応じて地域密着型サービス以外のサービスを勧めることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が役割を持って生活出来るような関係作りを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の変化に伴い、ご家族へ相談して相談したり面会に来ていただくよう協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の実家や、生活していた場所周辺にドライブに行くことがある。ご近所の方が来訪された際には話しやすい様に仲介等を行っている。	家族の面会時に習慣となっていた飲物などを用意してもらうこともある。希望の店に買い物に出かけている。日課の新聞取りや洋服選び、ヒゲそりなど、習慣の継続を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の場所を工夫したりしながら、利用者様同士が相互に必要なしあえるような関係性づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方やそのご家族様などへ、イベントに招待するなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から本人の希望、嗜好等を聞き出せるようしている。また、観察し気づいた点を職員で話し合い試行錯誤を繰り返している。本人の状況から確認が難しい場合は、ご家族と話し合い必要な支援につながる様にしている。	利用者からの要望や家族とのヒアリングを複数回重ねて、具体的な意見(余暇の過ごし方、飲み物や食べ物の希望等)をそのつど確認し、すぐに対応することを心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族、サービス事業者からの情報を提供していただき、アセスメントを行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のリズムで生活出来るように、ご本人の訴えを優先している。変化や課題がある場合は、随時ケアカンファを行い、現状に即した支援が提供できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申送り時や毎月の職員会議で意見交換を行なっている。検討事項・決定事項等をプランに反映している。	介護計画は、アセスメントと会議を開き、落ちついていない場合は6ヶ月ごとに、変化がある場合は随時見直しを行っている。職員が支援しやすいよう計画を具体的にして支援するよう取り組んでいる。	利用者の状況を統一して把握する意義と確認のためにモニタリングは毎月行ってみてはどうか。また、生活を視点とした個性ある計画作成を検討してはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌や健康記録表の特記事項に記載し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望やお墓参り・花見・ドライブなど、希望に合わせて外出している。フットワークの軽い援助を心がけて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所さんとの往来や関わりが持てるよう支援している。地域の店舗・農園を外出のイベントなどで利用したり、イベントに地域の方を招待している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続し、こちらから指定することはない。必要時には受診同行し、医師に状況説明を行いながら関係構築している。	契約時にかかりつけ医の継続や協力医への変更は選択できることを説明している。協力医は2名おり、往診もある。かかりつけ医への受診同行は、基本的には家族である。歯科受診は必要時に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週4日勤務の正看、常勤の准看で利用者の状態を把握し、必要なアドバイスを行なっている。その他24時間のオンコール体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の説明に必ず立ち会っている。必要な情報提供を行い病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時・病状変化時に看取りの説明を行い、状況を見極め終末期をどこで迎えたいか確認している。また、往診医が終末期の本人の状況・看取りの説明ができる機会を設けている。	看とり支援の方針に沿って実践もある。協力医の下で家族と話し合いを重ね、実践時では、本人と家族の希望や状況にあわせて、居室に頻回に足をはこび柔軟な対応や支援を心がけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	複数の職員は外部講習や事業所開催で普通救命救急を受講している。全ての職員が受講できるよう、今後も受講の機会を持っていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。運営推進会議を通じて地域住民の参加協力をお願いしている。またこちらから避難所として利用可能であることをお伝えしている。	直近1年は消防署立ちの夜間訓練を1回実施。マニュアルやハザードマップで避難場所の確認もしている。災害時に地域の拠点とされるよう意見も出している。水・3日分の食料・衛生品を備蓄している。	避難誘導がスムーズに行えるよう、事業所独自の自主訓練の実施を重ね、記録に残してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重した声掛けや接し方を心がけているが、地域性が強調されるような言葉遣い(方言や口調など)もある。	利用者への呼称は「〇〇さん」を基本に、時々々の状況も考慮しながら、本人の思いを尊重した声かけや働きかけを心がけている。テーブルの席も、力の差を感じさせない配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お菓子を選ぶ・服装を考える等、自己決定する機会が提供される様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状態に合わせて食事の時間をずらす、食事内容を変更する、眠くなるまでホールで過ごす等、個人のペースを基本にしてその日を過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族から本人好みの衣類をお預かりしており、陽気や状況に応じてご本人の希望を聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材(野菜)のヘタ取りや選定をしてもらい、季節を感じられる食事を心がけている。個々の能力に合わせた形状で提供し、出来る限り自立で食事できるような支援をしている。	近隣からいただいた食材も利用し、下ごしらえを利用者と一緒に行っている。献立には希望(パン食に合った副食等)も取り入れ、食べてもらえる食事の工夫をし、説明もしている。毎月外食に出かけている。おやつ飲み物は選択してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を確認し、記録・共有することで摂取状況を把握している。1日量で評価し過不足を補えるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯ブラシ・口腔スポンジ・義歯洗浄にて口腔ケアを行なっている。夕食後は入歯洗浄剤などを使い清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせて排泄パターンを把握し、トイレ誘導や状態に合わせてポータブルトイレを使用している。	排泄チェック表を活用している。起床時・就寝前は利用者の排泄パターンに合わせている。トイレでの排泄を基本に誘導している。現在ポータブルトイレを使用している利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適宜、乳酸菌飲料提供や牛乳の提供を行っている。2日間排便が無い場合は、腹部マッサージなど行い3日目に浣腸している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	清潔保持の為週2回は入浴できるよう支援している。拒否などあるときは時間や日にちをずらして対応している。	毎日入浴できる体制を組み、午前午後とも支援している。希望があれば毎日でも入浴してもらっている。拒否のある場合は日時を変えて、声かけにも工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々、習慣に合わせて休んで頂いている。高齢で寝たきり度の高い入居者様は食後の休息を行い、夜間は安楽に過ごせるような工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態に合わせて服薬ゼリー等を使用し嚥下しやすい服薬援助を行っている。症状の変化に合わせ主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝える作業は積極的に関わってもらいながら、役割のある生活を支援している。個々の好みに合わせ、踊りや歌の慰問など受け入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握し、お天気などの条件が良ければ外出できるよう取り組んでいる。	外出や外食の他、日常的に散歩にも出かけている。1名でも複数名でも臨機応変に支援している。利用者が自由に共用空間から隣接の事業所に行き来している様子が頻回にあり、その日の天気を感じる事ができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を持ち歩いている利用者もいる。現金預かりがない方に対しては、ご家族に了承いただき、スーパーで買い物することもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしたり、かかってきた電話に出てもらっている。年賀状をやり取りしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の居場所だと感じて頂ける様、自宅で使用していたものを居室に配置したり、昔ながらの家具などを使用している。季節感のある飾り物や観葉植物の配置、夏期の冷房の使用や乾燥時期の加湿器設置など行い、居心地よく過ごせるように努めている。	風の通りがよく、明るい事業所は食事の準備の様子を五感で感じられる。利用者が訪問者を確認することもでき、生活感がある。ソファや椅子が置かれ寛ぐ空間もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも座れるソファや畳ベッドなどを配置しており、行きたいところに行け座りたいところに座れる自由さを大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のタンスやご家族が購入された家具を置いたり、アルバムや日記など使い慣れたものを所持してもらっている。	自宅で使っていたものを自由に居室に持参してもらい、タンスや植木・テレビ・ラジカセ・寝具・写真など思い思いのものを揃えている利用者が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせ、安全に自立した生活が送れるよう物の置き場所等に配慮している。自由度が損なわれない様に随時検討している。		